



学園記念ホール  
ステンドグラス



Information From

Nichi-On

since 1903

—創立 104 周年—

# The Campus News

2.3月号

2007. 第 126 号

編集発行 学園事務局

日本音楽学校 幼児教育科 学生向情報

## <2~4月の行事予定>

### 1年生

- 1/29(月)~2/2(金) 追再試期間
- 2/5(月)~9(金) 幼稚園実習(保幼)
- 19(月)~3/1(木) 保育園実習(保幼)
- 2/5(月)~9(金) 幼稚園実習(保幼)
- 15(木)~16(金) 幼稚園実習事後指導日(保幼)
- 19(月)~3/1(木) 保育園実習(保幼)
- 3/5(月)~6(火) 保育園実習事後指導日(保幼)
- 3/7(水) 卒業式リハーサル
- 3/8(木) 卒業式
- 4/2(月) 刈込・教科書販売
- 3(火) 授業開始(月曜日振替授業)
- 13(金) 健康診断
- 25(水)・26(木) 新1年生宿泊研修の為休講

### 2年生

- 1/29(月)~2/2(金) 追再試期間
- 3/7(水) 卒業式リハーサル  
10:00~ 大ホール
- 3/8(木) 卒業式 10:00~ 大ホール

行事予定は追加・変更になることがありますので  
学内掲示等に注意して下さい。

## 学生生活を振り返って

保幼2A

川田 雄一

振り返ろうとすると、どの記憶も昨日のこのように鮮明に思い出されるくらい、二年間は驚くほどの早さで過ぎて行った。

期待を膨らませながら、入学していきなりの宿泊研修は、右も左も分からず戸惑ったことを覚えている。慣れない気恥ずかしさがあり、探り合いながら協力して手遊びなどを行ったが、共に学んで行く仲間というものを感じることができた。その後すぐに実習があった。どの実習も大変だった。先生として子どもに接することの責任感と緊張感につぶされそうになりながらも、保育を実感することができた。難しさは言うまでもなく、なかなか思い通りにいかないことだらけの状況を通して、経験と知識、技術の必要性を思い知らされた。しかし、子どもたちと接することで目の当たりにしたかわいさ、面白さ、不思議さはいつでも新鮮な驚きとともに興味を引いて止まない。

そして、どうしても印象に残っているのは保育研だろう。一年の時も、先生からのヒントをもらいながらも、先行きの見えない不安が募ることが多かったが、二年時の舞台発表は、一年時よりもあきらかに不安、プレッシャーが輪をかけて大きくなっていった。しかし、前年の反省や、学校などで得てきた経験は思った以上の力になった。よりスムーズで計画的に進めて行けたと思う。また、放課後や空き時間を使い、地道に作業をし、子どもに喜んでもらえるように頭を捻りながら一つの目標を目指すことはなかなかできる経験ではないだろう。終わった時の達成感と言うまでもない。とても貴重な経験だった。

思い出深い行事などが多かったが、何よりも大きかったのは、同じ経験ができた友達ができたことかもしれない。必ずしも保育に関わる人ばかりではないが、子どもが好きな友達ができた。たくさんの同じ時間を過ごし、たくさん話をした。この繋がりや、これからも大切にしていきたい。同じ目線を持った、仲間として。



## 12/21・22 保育研究発表会を振り返って

保幼1 A 金田 勇作

今回私は、SPT舞台係の副委員長という立場でこの保育研究発表会にのぞんだ。

SPTでの仕事内容は、2年生の舞台発表のときの舞台進行係だった。全ての動きを把握した上で他の舞台係の人たちにも指示を出さなければいけないという、カッコ良く言えば現場監督みたいな感じだった。とは言っても初めの頃は何をどうすればいいのかさっぱりわからなかったし、クラスの方もいい感じとは言えなかった。それでも何度かこなしていくうちにだんだんと慣れていき、クラスの方にも落ち着いて参加できるなど、ほんの少し余裕も出てきた。前日準備日のリハ



ーサルでは2日分の舞台発表を1日で全部やるというハードな内容だったけど、そういう苦労があったから本番はなんとなく気楽にむかえることができた。本番2日目、2年生の舞台発表が終わって最後の幕が下りた時は、一つのことをようやく今やり遂げたんだという安心感と今までの疲労から全身の力が一気に抜けてしまった。

SPTの舞台係を経験して本当に良かったと思う。そのおかげで今回の保育研では様々な人たちに出逢うことができた。リハーサルのときから付きっきりでアドバイスをくれた委員長の川崎さんには本当に感謝をしている。その他にも、舞台係担当の山本先生をはじめ色々な人にお世話になった。舞台裏ではい

ろいろと厳しい言葉も頂いたりしたけれど、そういう一つひとつの出来事が今後の自分にとってすごく大きなものになってくるのだと思う。保育研が終わった瞬間にはなんとなく淋しい気持ちになったけど、来年度もまた頑張ろうという気持ちにもなれた。それに、この年になって何かに夢中になれるということは幸せなことでもあるのだから。

## 12/21・22 保育研究発表会を振り返って

保幼2 A 川崎 喜朗



私は2年にわたり、保育研究発表会にSPTとして関わりました。保育研究発表会（以下、保育研）は学生が中心となり企画・運営していくもので、SPTは数ヶ月前から当日のために集まり、準備を進めてきました。1年の時は保育研がどのような感じなのかまったくわからず、苦しみながらの準備や作業になりましたし、その中で意見の対立などもありました。しかし、先輩方や先生方に助けられながら何とか無事に終えることができたのを覚えています。その中で頼もしい先輩方の姿に2年生になった自分を重ねていました。

今年度は委員長を任されることになり、プレッシャーや不安・責任というのを強く感じました。「昨年よりもよい保育研にしたい」という気持ちばかりが空回りし、自分の不出来さに投げ出したい気持ちになった時もありました。そんなときにSPTで仲良くなった仲間が先輩、後輩関係なく、すれ違う時に笑顔で話しかけてくれたり、一緒に考え、助けてくれたことが励みになりました。先生方もSPTを通して他愛もない話ができることもうれしかったです。

大変だった以上に、うれしかった、楽しかったという気持ちが強かったです。それと同時に来ていただいたお客さんたちに楽しんでもらう舞台を作るとするのはとても大変なことだと知りました。私たちは何か発表などをする時に自分たちが主役になりがちですが、観客が主役なんだということを改めて知りました。

保育研に対して、またはその他のことにおいても「面倒くさいな」と思う瞬間がありませんか？私もその一人です。しかし、そこで投げ出してしまえば、今のような仲間や経験に出会えることはなかったと思います。今、やり遂げた充実感があり、すがすがしい気持ちで学校を後にすることができます。時に叱り、自信と勇気を下さった先生方ありがとうございました。一緒に励ましあった友達へ、ありがとうございます。保育研を通して出会った人たちや、貴重な経験が、私を成長させてくれました。それでは最後に、今しか感じるすることができない気持ちというのがあると思います。それに気づかずに過ごしてしまうのはもったいないことです。楽しいことは身の回りにあるものです。

